

みのかも文化の森 年報 平成15年度



目 次

はじめに	1
遊びながら学べる、森の中のミュージアム	2
発掘された尾崎遺跡	4
常設展示 常設展示室・生活体験館・民具展示館	6
企画展	9
特別展示	16
市民参画	18
ボランティア	22
教育普及	26
虫菌害対策	31
学校活用の理念と現状	32
教育センター	36
施設の利用状況	39
来館者アンケート	42
広報活動の記録	44
組織図	47
利用案内	47

◆はじめに

みのかも文化の森は美濃加茂市の生涯学習・市民文化の拠点として、約9ヘクタールの森に教育センターと博物館、美術館、生活体験館、実習棟、アトリエ棟を組み入れた複合施設として2000年（平成12年）に開設しました。企画展や各種講座・イベント、ワークショップ等を実施しながら多くのボランティアの皆さんとともに、広く市内外に交流の場を提供しています。

この文化の森は、建設前に資料収集と整理に20年以上を要し、また完成までにはこれらの資料の活用と施設のあり方を10年以上かけて、何度も研究を重ねてきたソフト最優先の施設です。そのためここには本市の自然・歴史的・文化的な資料が数多く保存され活用されています。

「地域」のミュージアムとして、今年度も多くの展覧会と催し物を開催しました。いずれもこの地域と文化の森の特性からテーマを設定し、それぞれ掘り下げて展示紹介を行いました。展示だけでなく、市民参加型の催し物もあわせて実施し、ここが市民の文化的交流の場となることをめざしています。

養蚕民家を復元した生活体験館では、昔の生活様式や遊びの紹介、機織り、くどで薪を炊いてご飯を炊くなど昔ながらの伝承料理の講座やイベントに参加できます。

このような施設を活用して、市内の保育園や小中学校が、教科の学習や総合的な学習の時間でここでしかできない学習を行います。

教育センターでは土・日を問わず毎日教育相談を受け付け、電話相談や来所相談に応じています。毎日不登校の児童生徒を受け入れ、この施設の中で様々な体験をしたりボランティアの方々と接して心のケアをしながら、児童生徒の学校への復帰を期待しています。また、教職員の研修として広く市民講座を研修に組み入れながら、幅広い知識と経験を持つ教職員の育成を目指しています。

このように文化の森では、事業ごとに学芸員、教師、ボランティアが関わり、本物に触れたり歴史、自然、芸術活動等の体験をしたりして文化をはぐくむことのできるようにと考えています。教育と文化の機能を併せ持った「博学連携施設」として体験、人、情報を軸に、今後も広く「交流の場」として活動していきます。

みのかも文化の森

◆遊びながら学べる、森の中のミュージアムへ

とおりにいっぺんの知識よりも、感じることや楽しむことを大切にする。
そんな、ちょっと変わった博物館を「文化の森」はめざしています。

自然と建物がお互いに共存しあう「文化の森」

フィールドの豊かな開かれたミュージアムです。

文化は、人間の精神活動の産物だともいわれます。自然にあふれた環境の中でこそ、すぐれた創作活動、ゆたかな文化を育むことができるのではないのでしょうか。文化の森は、広大な森と建物から成り立つ施設。「建物」という人間の活動の場が「森」というエネルギーの源、やすらぎの場につつまれた、まさに自然と一体化したミュージアムです。

文化をからだで感じられる「文化の森」

「森の学校」という考えを持ったミュージアムです。

文化の森には、いろいろな素材があります。ゆたかな自然、むかしの民家、遺跡、彫刻。学校では体験できないことを、ここでは、からだで感じられます。その感動そのものが、学習です。目標の到達度に価値を置かない、これからの教育や学習の姿を模索します。

双方向で文化を支える「文化の森」

市民と一体、参加型のミュージアムです。

文化の森は市民が主人公です。自由で、自発的な市民の活動の成果が、ミュージアムの中で少しずつ蓄積されてきています。そして、それがミュージアムの力となり、新しい取り組みや規格が生まれてくるような、双方向システムにつながればと考えています。

コミュニティーを基本に考えた「文化の森」

地域づくりを基本に考えたミュージアムです。

人々の日常の生活圏のなかで、文化の森は愛されたいと思います。

ミュージアムの領域だけでなく、そこから発展した地域の人々の身近な生活課題や社会的なことを考える場としての「地域博物館」をめざしています。

人をつくり、コミュニティーを育てます。

■ 森の全体図



-発掘された尾崎遺跡-

みのかも文化の森では、昔の人々が暮らしていた跡などが非常に多く残されていました。そのような場所を「遺跡」とよび、ここは字名より「尾崎遺跡」といいます。また、遺跡の中に残された当時の家や井戸といった施設などの跡を「遺構」とよび、様々な出土品を「遺物」といいます。

美濃加茂市には、「遺跡」と考えられる場所が、140カ所以上になるとされており、その一つが、尾崎遺跡です。市街地から約1km程北へ進んだ場所に位置しており、市中央部に広がる木曽川河岸段丘の最高位にあたる「上野台地」が南へ張り出した丘に立地しています。その標高は100～110m前後で、市街地はもとより、木曽川対岸も含めた盆地全体を見下ろすことができるながめの良い場所です。

この丘のほぼ全体で発掘調査を行った結果から、旧石器時代、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中世を経て現代の長い間、台地上の広い範囲において集落などが営まれたことがわかりました。



① 埋設土器 1



⑤ 67号住居址



③ 102号住居址から
出土した土器



② 石包丁
(南駐車場地区出土)



⑥ 遺物集中区 12



④ たてあなじゅうきよ
竪穴住居の様子
(12号住居址)

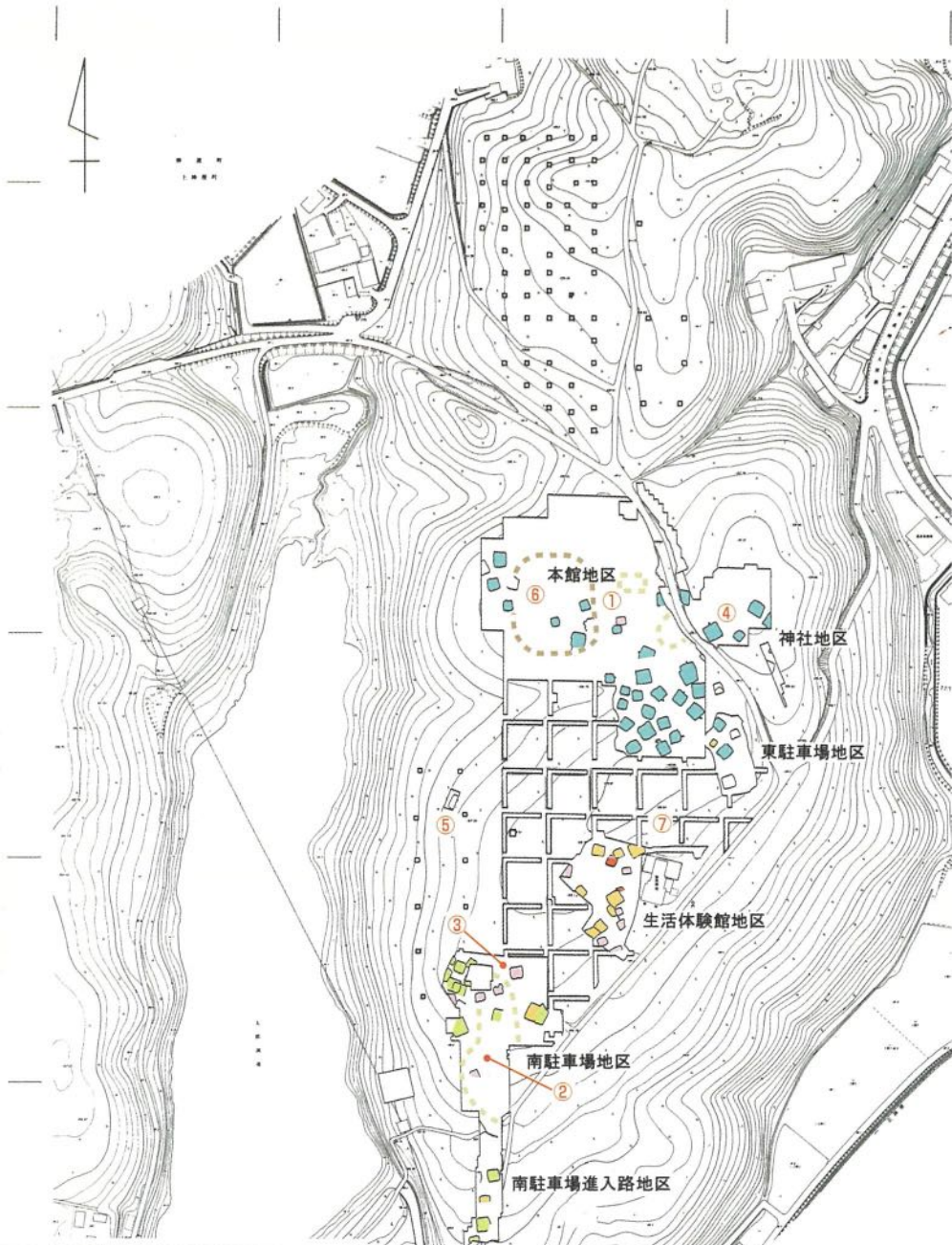


▲(表面)

⑦ 大工道具としての
ヤリガンナ



▼(側面)



時代区分	遺跡内 時期区分	主な遺構等の消長			
		埋設土器	築穴住居址	掘立柱建物址	遺物集中区
B.C. A.D.	後期旧石器時代	I期			
	縄文時代	晩期	II期	●	
		中期	III期		
	弥生時代	後期	IV期		
		未定			
前期		V期			
6 C 7 C	古墳時代	初期			
	中期	VI期			
8 C	後期				
9 C	奈良時代	VII期			
10 C	平安時代				
11 C	中世				

尾崎遺跡の時代区分
 (「主な遺構」欄についての図の横軸は遺構の多少を示す)

検出された主な遺構について
 (市調査分のみ)

- 弥生時代中期 ■
- 弥生時代後期 ■
- ～古墳時代初頭 ■
- 古墳時代前期 ■
- 古墳時代後期 ■
- 奈良～平安時代 ■
- 掘立柱建物址 ■
- 遺物集中区 ■

※各番号は写真番号に対応。

文化の森の地形と発掘された範囲

◆常設展示

美濃加茂市は、木曾川・飛騨川の合流点に位置しており、その気候や風土、人々の生活などに「川」の存在が大きく影響していました。美濃加茂市と川との関わりに着目し、「川と大地」「川と文化」「川と道」「祈りの世界」「群像美濃加茂」などを常設展示室内に設けています。

<川と大地>

およそ、1,900 万年前のキロテリウム(通称カニサイ) と呼ばれる哺乳動物化石や珪化木の実物資料、周辺の地層を構成する岩石類を観察することができます。

また、動植物の標本や生態についても展示しています。



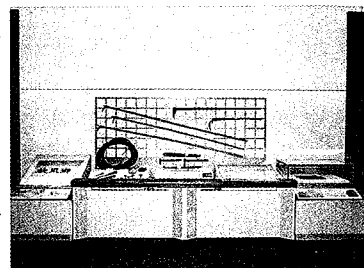
<川と文化>

旧石器時代及び縄文、弥生を経て中世に至るまで、美濃加茂市内の各遺跡から出土した石器や土器などの暮らしの道具や関連した資料を中心に展示しています。それらは、市域において川と共に暮らした人々の生活をうかがい知ることのできる資料として貴重なものです。



<川と道>

地理的、歴史的に交通の要衝であった美濃加茂を紹介しています。中山道の難所である太田の渡しを控えた重要な宿場町という姿、木曾や飛騨の山々で伐採された木材を運搬するためのイカダ流しの様子を今に伝えています。



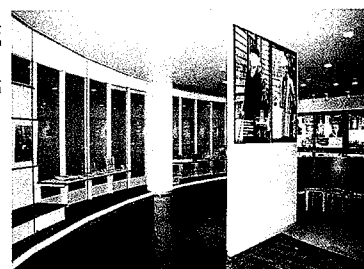
<祈りの世界>

この地域に暮らした人々の精神生活に関係した資料が展示されています。展示品には、悪魔を祓ったり、豊作を祈念する芸能である獅子舞に用いられた獅子頭があり、その制作と修理の年代を記した墨書もみられます。その他に棟札など信仰に関する資料のほか、市内から出土した縄文時代の石棒や土偶、様々な装飾品などがあります。



<群像美濃加茂>

ここでは、美濃加茂市の文化の発展において貢献した人物を紹介するものです。明治～昭和の近代日本文学界や演劇において、先駆的、革新的な役割を果たした坪内逍遙や日本の歴史について実証的、科学的な研究方法で捉えなおした津田左右吉らの業績や愛用していた遺品、二人の交流などを示した資料が展示されています。また、その他の先人についても紹介されています。



<新展示資料>

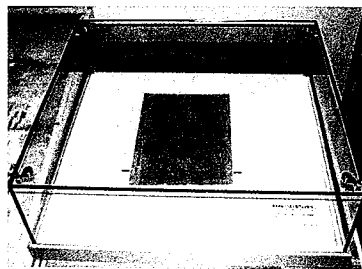
・ゴンフォテリウム（ゾウの祖先）

企画展「美濃加茂にサイやゾウがいた頃」に出展した展示品「ゴンフォテリウムの牙」のレプリカを作成し、展示しました。この資料は、常設展示で既に展示されている欠損部分です。詳細については 美濃加茂市民ミュージアムの紀要第3集に収録されています。



・太田宿本陣見取り図

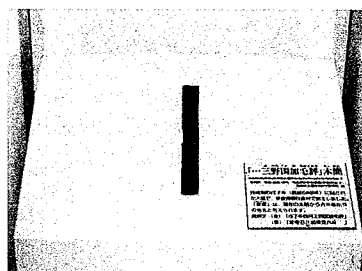
中山道太田宿本陣の見取り図。個人所蔵の資料レプリカを作成し、当時の遺構を再現しました。本資料は、ふすまの下張りから発見されたもので、ふすまの墨書がにじんでいましたが、デジタル処理により当初の配置を復元しました。学芸員実習において実地展示の資料として実習生によって展示を行いました。



・巡礼木簡

持統朝の戊子年（西暦688年）に記された木簡で、奈良明日香村で出土したものです。

「度里」（わたりのさと）は、現在の太田から古井辺りの地名と考えられています。この資料も学芸員実習において実地展示の資料として実習生によって展示を行いました。



・子供教訓 いろは和讃

「伝見仏上人著播隆施印」の資料。この資料も、学芸員実習において実地展示の資料として実習生にて展示を行いました。

<生活体験館>（まゆの家）

この建物の前身は、明治時代後期に建てられた蜂屋村村長宅の主屋で、大正時代に深田に移築された後、現在の中富町に再び移築されたものです。

養蚕農家を復元した建物からは、当時の生活と密接に結びついた養蚕を随所に見ることができます。まゆの家や附属施設となる体験工房では、来館者の見学の他、企画展や学校の学習利用「機織り」や「四季を食べる」をはじめ、草木染めなどの「くらし体験」や年中行事、まゆの家まつりなどの様々な活動が行われています。



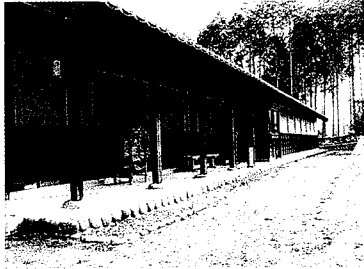
<民具展示館>

民具展示館は、養蚕や蜂屋柿、農耕などに関する道具を展示・収蔵する施設です。収蔵部分には、その一部である養蚕・農耕関係の資料を保管しています。展示部分では、養蚕・蜂屋柿・農耕及び畑作・生活資料 1930 などがあります。

「時代で読み解く民俗誌」というサブタイトルをもつ「生活資料 1930」のコーナーでは、昭和5年製造の墨書を持つトノウチが、当時の世相や感慨を細かく伝えてくれます。

この資料を手がかりに「1930(昭和5年)」の資料にこだわってみました。そこでは、昭和初年の時代をうかがうことができるようになっています。

また、パソコンで、道具の使い方を映像などを使って解説しており、学校の学習での利用も可能です。

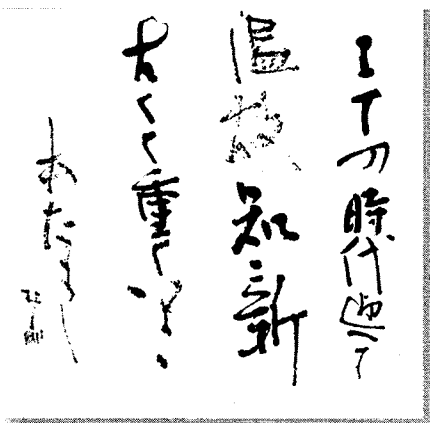


◆企画展

座馬 井邨 展

(1) 趣旨

美濃加茂市出身で全国的に活躍する書家座馬井邨（日展会員）の最近作約60点を展示しました。古歌と自詠歌を書作の題材とした、すがすがしく清韻な世界を紹介しました。



座馬 井邨「ITの時代迎へて温故知新 古くて面白いあたらし」

- (2) 会期 2003（平成15）年4月3日～4月13日 <10日間>
- (3) 観覧料 無料
- (4) 会場 企画展示室・美術工芸展示室
- (5) 展示点数 60点

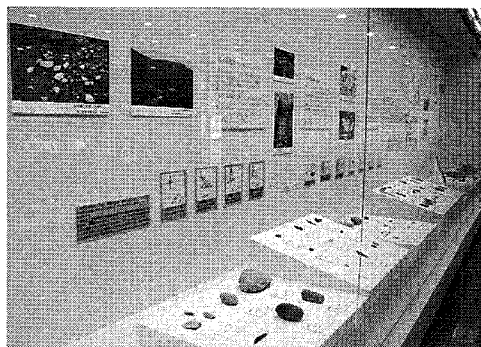
「土に残る記憶-旧石器と縄文-」展

(1) 趣旨

旧石器時代（今から1万年以上前）は、たいへん寒い気候でした。

そのため、当時生きていた動物や植物も現在の日本では目にすることができないものもあります。

そのような時代に暮らした人々の生活の様子を復元するため、当時の自然環境や彼らが動物の骨や石で作った道具などといった、遺跡に残されたものに注目しました。また、岐阜県で発見された貴重な縄文時代の出土品などもあわせて展示しました。また、学校の学習活動と連携し、出土品など手でさわったり、遊ぶことのできるコーナーや様々な体験講座などを行いました。



- (2) 会期 2003（平成15）年4月23日（水）～5月25日（日） <29日間>
- (3) 観覧料 200円（150円）、小中学生100円（50円）
（ ）は20名以上の団体料金及び、かるちすとくらぶ料金
- (4) 会場 企画展示室
- (5) 展示点数 85点
- (6) 関連事業

①ミュージアムフォーラム

（2003年5月10日（土）14：00～15：30/会場：緑のホール/参加料無料）

「戸入村平遺跡の発掘調査」坂東 肇氏 元（財）岐阜県文化財保護センター

「美濃加茂市の旧石器時代遺跡」当館学芸員

②体験講座

「つくってみよう・つかってみよう-縄文人体験-」

(2003年5月18日(日) 13:00～16:00/会場: 実習棟テラスほか/参加料無料)

③アートな1日講座

「縄文アート(勾玉^{まがたま}アクセサリー)」

(2003年5月25日(日) 13:00～16:00/会場: 工芸室/参加料500円)

④ミュージアムトーク

(2003年4月27日(日)・5月4日(日) 11:00～12:00・14:00～15:00/会場: 企画展示室/参加料 企画展観覧料)

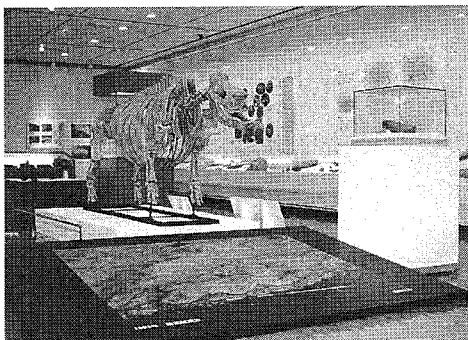
「美濃加茂にサイやゾウがいた頃」展

(1) 趣旨

美濃加茂盆地にすんでいた古生物の解明と最近の研究成果の紹介及び古環境を証明し自然への理解を深めることを目的としました。

美濃加茂とその周辺の地域は、豊かな水の流れと肥沃な大地に恵まれたところであり、人々は、この土地で生まれ、育ち、文明を築いてきました。

ずっとむかしの美濃加茂の古環境はどうだったのだろうか、そんな疑問を持っている人たちは多いはず。長い時間の中で形作られてきた自然はいったいどんな変化をしてきたのか、この地域にはどんな生き物がいて、どんな環境だったのかこれらを知る手がかりとなるのが、この地域で豊富に産出する化石や岩石・鉱物です。化石やその周辺の地層を調べていくと、豊かな森、そこに生息する動植物たちの姿を復元することができます。



(2) 会期 2003(平成15)年7月10日(木)～8月31日(日) <53日間>

(3) 観覧料 一般 300円(200円)、小中学生 150円(100円)

()は20名以上の団体料金及び、かるちすとくらぶ料金

(4) 会場 企画展示室、美術工芸展示室

(5) 展示点数 ゾウの化石・サイの化石・サイの骨格標本等 約200点

(6) 関連事業

①記念講演会「発見・なぞ解き・復元」-東濃地方の古生物-

(2003年8月9日(土)10:00～12:00/会場: 緑のホール/参加料無料)

講師 糸魚川淳二氏(豊橋市自然史博物館館長・名古屋大学名誉教授)

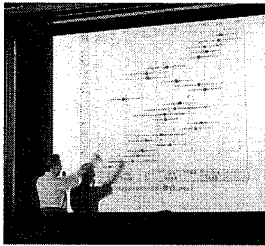
②シンポジウム「瑞浪層群の古環境」-中新世の美濃加茂盆地・陸域の古環境を探る-

(2003年8月9日(土)13:00～16:00/会場: 緑のホール/参加料無料)

コーディネーター 糸魚川淳二氏(豊橋市自然史博物館館長・名古屋大学名誉教授)

パネリスト

層序・年代 鹿野勘次氏（岐阜県立岐山高等学校教頭）林 譲治氏（岐阜県立各務原高等学校教諭）野村隆光（愛知県立尾北高等学校期限付教諭）



哺乳動物 川合康司氏（加茂郡東白川中学校校長）
古植物 寺田和雄氏（福井県立恐竜博物館古生物学職研究員）
伊那治行氏（愛知県立旭稜高等学校教諭）
齋藤 毅氏（名城大学理工学部一般教養地学研究室）
魚 類 中島経夫氏（滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員）
海綿・貝類 松岡敬二氏（豊橋市自然史博物館学芸員）

③ミュージアムトーク（企画展解説）

（2003年7月27日（土）、8月3日（日）11:00～12:00・14:00～15:00/会場：企画展示室・美術工芸室/参加料企画展入場料）

④自然観察会（地質と岩石の観察）

（2003年8月23日（土）、13:30～15:30/会場：工芸室/参加料300円）

⑤アートな1日講座（化石のレプリカ作り）

(7) 図録 美濃加茂にサイやゾウがいた頃 A4版、P51、800円

執筆：鹿野勘次氏（岐阜県立岐山高等学校教頭）川合康司氏（加茂郡東白川中学校校長）

第22回岐阜県移動美術館 中川ともと坪内節太郎－芝居絵の世界展

(1) 趣旨

岐阜県美術館は、1982年の開館以来、県民の文化芸術の拠点として広く知られています。

館には、さまざまなコレクションがありますがその一つに日本を代表する地域ゆかりの作家の作品があります。

この展覧会では、その収蔵品の中から、岐阜県恵那郡中津川町（現中津川市）に生まれた中川とも（1890～1982）と岐阜県稲葉郡那加村（現各務原市）に生まれた坪内節太郎（1905～1979）の作品の数々を紹介しました。

美濃地方は、昔から地芝居がさかんな地域で、現在も各地で上演が行われています。地歌舞伎や文楽を題材にした芝居絵を中心に、二人の多彩な画業をあわせて紹介しました。

[主催] 美濃加茂市民ミュージアム・岐阜県美術館



(2) 会期 2003 (平成 15) 年 9 月 17 日 (水) ~ 10 月 26 日 (日) < 34 日間 >

(3) 観覧料 一般 300 円 (200 円)、小中学生 150 円 (100 円)

() は 20 名以上の団体料金及び、かるちすとくらぶ料金

(4) 会場 企画展示室・美術工芸展示室

(5) 展示点数 岐阜県美術館所蔵の中川ともの作品 16 点、坪内節太郎の作品 28 点

(6) 関連事業

① プレ企画「美濃の地芝居を観る-東白川村歌舞伎」

講師 菊池 明氏 (財団法人逍遙協会元理事長)

(2003 年 9 月 14 日 (日) 10:00 ~ 15:00/会場: 加茂郡東白川村はなのき会館/参加料 500 円)

② ミュージアムフォーラム「中川とものと坪内節太郎の芸術」

講師 岡田 潔氏 (岐阜県美術館学芸員)

(2003 年 10 月 5 日 (日) 14:00 ~ 15:30/会場: 緑のホール/参加料無料)

③ アートな 1 日講座「隈取アート」

講師 原田 宙氏 (絵かき、美濃・飛騨歌舞伎化粧師^{かおし})

(2003 年 10 月 12 日 (日) 13:00 ~ 16:00/会場: エントランスホール/参加料 500 円)

(7) 図録

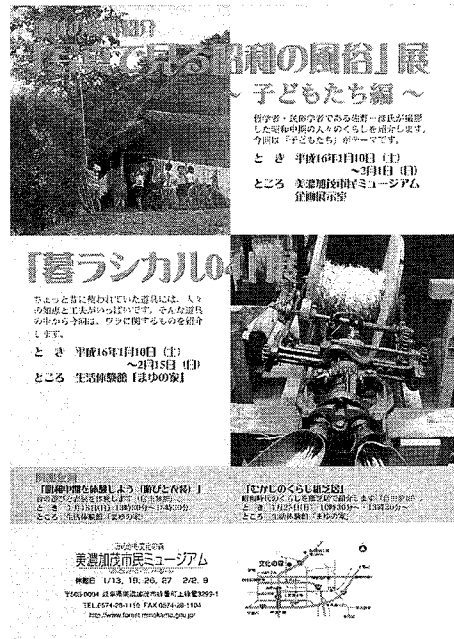
中川とものと坪内節太郎-芝居絵の世界展 A4判 24頁 600円

「写真で見る昭和の風俗」展

(1) 趣旨

哲学者であり、民俗学者でもあった佐野一彦氏 (1903 ~ 1997) は、1945 年、戦火を逃れて家族と共に、兵庫県神戸市から美濃加茂市伊深町へ疎開しそのままこの地に定住しました。佐野氏は、伊深の人々のくらしにたいへん興味を持ち、地域に溶け込んで生活を送りながら、いろいろな行事や農作業の様子などを克明に撮影しました。また、佐野氏がつづっていた日記には、当時の様子や方言、風習などについての記述を見ることができ、貴重な民俗資料となっています。そこで本展では、佐野氏が撮影した 7,000 点を超える写真の中から「子どもたち」をテーマに、昭和中期の写真 60 点と佐野氏の日記を紹介しました。一枚の写真からは、たくさんの情報を得ることができます。来館者は、佐野氏の写真から、当時の習俗や家庭の様子、そして地域の風景やその時代を感じさせるもの、撮影意図など、多くのことを学ぶことができます。

(2) 会期 2004 (平成 16) 年 1 月 10 日 (土) ~ 2 月 1 日 (日)



- (3) 観覧料 無料
- (4) 会場 企画展示室
- (5) 展示点数 60点(写真)
- (6) 関連事業

①講座「昭和中期を体験しよう(遊びと衣装)」

(2004年1月18日(日)13:30～16:00/会場：生活体験館「まゆの家」/参加料無料)

②講座「むかしの暮らし紙芝居」

(2004年1月25日(日)①10:30～②13:30～/会場：生活体験館「まゆの家」/参加料無料)

小本章展

(1) 趣旨

「写真」を手段に作品を制作し続けている小本章氏こもとあきら(1935～)は、様々な自然条件のなか、森や川にキャンバスなどを置き、一定の距離から観察して、キャンバスに隠れた背後の自然の色を写し取り、風景を「写真」に切り取っています。その場の全てのものがキャンバスとつながり、風景の一部となって溶け込みます。

変化し続ける自然の中で、突如あらわれたそれらの物体により、見る者は時に現実と非現実が交差する世界にとまどい、引き込まれます。

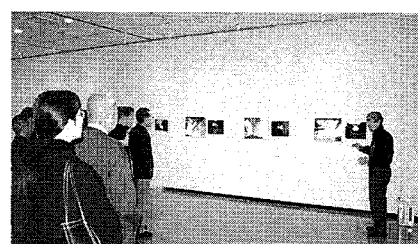
美濃加茂市民ミュージアムや日本各地で制作された、写真とキャンバスの組み合わせによる新作を中心に、ドイツ、フランスで制作された大型写真作品を展示いたしました。

(2) 会期 2004(平成16)年2月8日(日)～3月21日(日)

(3) 観覧料 無料

(4) 会場 美術工芸展示室

(5) 展示点数 21点

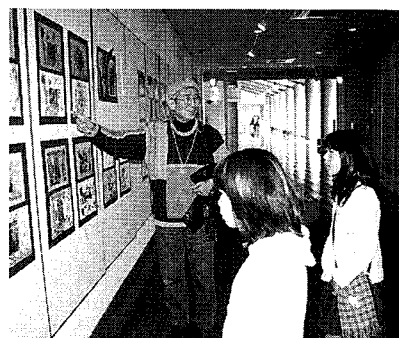


作品について語る小本氏

小本章ワークショップ 展

(1) 趣旨

作家の存在を知り、思いを作品から感じ取る、そして心やからだを使ってアーティストといっしょにひとつの作品をつくりあげようと、2003年は「写真」を手段に作品を制作し続けている、小本章氏(1935～)を迎えました。夏と秋に開催した、小本章ワークショップでは、森の中で自然の色をつくったり、葉っぱや枝を使って紙の上で自由に表現して、描いたそのままの状態をデジタルカメラで撮影しました。



参加者に語りかける小本氏

ワークショップ参加者の、彩色した作品と写真を組み合わせて、展示いたしました。

- (2) 会期 2004(平成16)年3月13日(土)～3月21日(日)
- (3) 観覧料 無料
- (4) 会場 展示ホール
- (5) 展示点数 ワークショップ参加者の作品44点
- (6) 関連事業

小本章ワークショップ～自然の色をさがそう～

夏・・・8月16日 秋・・・11月1日

「津田左右吉-その人と時代-」展

(1) 趣旨

津田左右吉は、明治6年(1873)に現在の美濃加茂市で生まれ、歴史学者・思想史家として、古事記・日本書紀の研究をはじめとする「津田史学」と呼ばれる多くの業績を残しました。その一方、その画期的な業績の故に、国家主義者などから学問的弾圧を受けて、やむなく早稲田大学教授を辞任、代表的著書は発売禁止となり、出版法違反で訴追を受けるなど、苦難に立たされることもありました。

戦後は一転、その業績が認められて、昭和24年(1949)に文化勲章を受章し、また、昭和35年(1960)には、美濃加茂市で初の名誉市民にも推戴されました。

本展では、この津田左右吉の生涯と研究を、さまざまな人々との交流とともに紹介しました。

- (2) 会期 2004(平成16)年2月8日(日)～3月21日(日)
- (3) 観覧料 一般200円(100円) 小中学校100円(50円)
※()内は、20名以上の団体料金及びかるちすとくらぶ料金
- (4) 会場 企画展示室
- (5) 展示点数 100点
- (6) 関連事業

①「左右吉とふるさと-ゆかりの地めぐり-」

津田左右吉が少年時代を過ごした下米田の各所を見学しました。

(2004年2月15日(日) 10:30～12:00/参加料無料)

②ミュージアムフォーラム「津田左右吉とその時代」

講師 今井 修氏(早稲田大学非常勤講師)

(2004年2月15日(日) 14:00～15:30/会場:緑のホール/入場料無料)

③朗読会 津田左右吉著「子どもの時のおもひで」より

(2004年3月6日(土) 14:00～15:00/会場:緑のホール/入場料無料)

④学術シンポジウム「今、改めて津田左右吉を問う」-古事記・日本書紀の読み解きをめぐって-



パネリスト

新川登亀男氏（早稲田大学教授）「津田左右吉と古代史」

篠川 賢氏（成城大学教授）「津田左右吉の国造観」

早川万年氏（岐阜大学助教授）「津田左右吉の「国民思想」論と記紀」

瀬間正之氏（上智大学教授）「津田左右吉と記紀研究-国文学的側面から-」

（2004年3月7日（日）13:00～16:30/会場：研修室/入場料無料）

（7）図録

「津田左右吉-その人と時代-」展示図録 A4 64項 600円

◆特別展示

平成15年度中に開催した展示会の中で、企画展以外の展示を紹介いたします。

蚕とまゆ展03

(1) 趣旨

美濃加茂市は、岐阜県内で最も養蚕が盛んな地域です。本展では、蚕とまゆの育成と、生糸の生産方法を紹介しながら、そのために使用される養蚕と製糸の道具を展示しました。

(2) 会期 2003（平成15）年5月17日（土）～7月27日（日）＜72日間＞

(3) 観覧料 無料

(4) 会場 生活体験館「まゆの家」

(5) 展示点数 20点

(6) 関連行事

①「真綿づくりとつむぎ糸づくり体験」

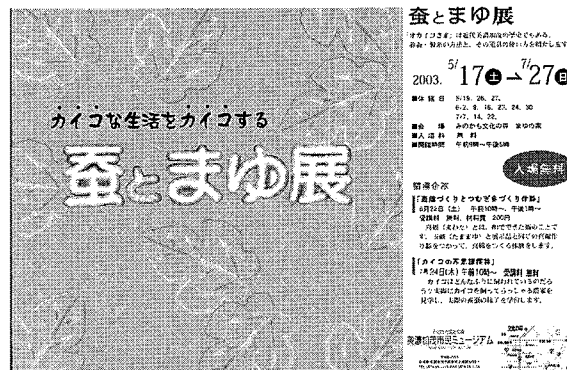
(2003年6月22日(日)①10:00～12:00②13:00～15:00/会場：生活体験館「まゆの家」/受講料200円)

まゆから真綿をつくり、真綿から糸をつむいで、昔の製糸を体験しました。

②「カイコの不思議探検」

(2003年7月24日(木)10:00～/会場：岐阜県生物産業技術研究所・市内の養蚕農家/参加料無料)

市内で実際にカイコが飼われている施設と農家を見学し、カイコの生態や養蚕の技術についての理解を深めました。



暮らしカル道具展04

(1) 趣旨

かつての暮らしで実際に使われていた道具をとおして、人々が培った知恵や生活の苦勞などを知ります。本年は、ワラに関わる道具を中心にとりあげました。

また、これとは別に、手にとることのできる「さわってみよう」コーナーも設けました。

(2) 会期 2004（平成16）年1月10日（土）～2月15日（日）＜37日間＞

(3) 観覧料 無料

(4) 会場 生活体験館「まゆの家」

(5) 資料点数 30点

(6) 関連行事

① 俵編み実演会

(2004年2月8日(日) 13:30～/会場：生活体験館「まゆの家」/自由見学)

展示品のタワラアミキをつかって、ワラからタワラを編む実演を行いました。



第48回美濃加茂市美術展

(1) 趣旨

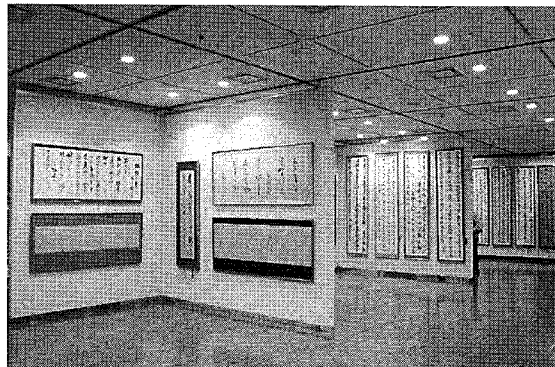
美術との身近なふれあいの場として、文化の発展のために、市内外から広く作品を公募し、一般に公開することを目的としています。

(2) 会期 2003(平成15)年11月22日(土)～11月30日(日) <9日間>

(3) 観覧料 無料

(4) 会場 企画展示室・美術工芸展示室・エントランスホール・展示ホール

(5) 展示点数 278点(日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の5部門)



◆市民参画

みのかも文化の森/美濃加茂市民ミュージアムは、その理念に「市民参加を中心に考える」を挙げています。ここでは、「市民が主人公となり、自由な発想と自発的な活動」で計画・実施された催しを紹介します。

(1) 森のコンサート

①春のコンサート

と き 2003(平成15)年5月4日(日) 1回目・11:00～2回目・14:00～

ところ エントランスホール

参加料 無料

演奏 名古屋大学フォルクローレ同好会

内容 森のコンサートとして「フォルクローレ演奏会」を文化の森で開催しました。

今年で、2回目のフォルクローレコンサートで、「前回は聴きましたが、また聴きたい。」「もう一度、二度聴きたい。」など好評でした。

また、JRさわやかウォークのコースとしてみのかも文化の森にたくさんの方が来館され、コンサートを楽しみながら休息をとられる姿が見られました。



②サマーコンサート

と き 2003(平成15)年8月23日(土) 14:00～15:30

ところ エントランスホール

参加料 無料

演奏 THE PEACE MAKERS (ザ・ピースメーカーズ)

内容 アコースティックギターを中心としたバンドで、懐かしい曲から新しい曲までジャンルを問わない演奏で、「夏の疲れがすーっと抜けていくような気持ちのコンサートで来てよかった。」または、「静かな森の中で素晴らしい曲と歌声と・・・心地よい気持ちで聴けたことをうれしく思う。」など、感想をいただきみなさんに楽しんでいただきました。



③クリスマスコンサート

と き 2003(平成15)年12月17日(水) 19:00～20:00

ところ エントランスホール

参加料 無料

演 奏 兼松弘子と美濃加茂ゴスペルクワイア

内 容 200名ほどの方が来館され、エントランスに響き渡る熱気にあふれた歌声に「大変素晴らしかった。楽しかった。」「音響がけっこう良い。」などの感想をいただき大好評でした。



④ヴァレンタインコンサート

と き 2004(平成16)年2月7日(土) 14:00～15:00

ところ エントランスホール

参加料 無料

演 奏 高橋 卓也 (ヴァイオリン)・篠田 敦子 (ピアノ)

内 容 演奏者 高橋 卓也氏は、岐阜県土岐市出身で世界各地での演奏会をはじめ、テレビ・ラジオ等で活躍し、マスコミにも多数紹介されています。ジャンルにとらわれず観客と一体となってもりあがるエネルギッシュなコンサートは、多くのファンを魅了し、今回のコンサートにおいても、「初めてのヴァイオリンのコンサートで、すごく感動しました。」「音色がすごく染みいってきてまた聴きたくなりました。」など感想をいただき大好評でした。



(2) 春・朗読の一日

と き 2003(平成15)年4月27日(日) 10:00～16:30

ところ 緑のホール、実習棟テラス、生活体験館

来場者 約600名

出 演 市内外の35グループ 153名

内 容 「春朗読の一日」実行委員会（代表・高野春廣）に委託して実施。文化の森の3会場において自由なスタイルで朗読を行いました。うらかな春の一日、来場者は各会場に足を運び朗読の世界を楽しみました。また、終了後生活体験館において出演者の皆さんの交流会が行われ、情報交換などにより親睦を深めました。



(3) 森の朗読会

- と き 2003(平成15)年 4月19日(土)「ねこはしる」
 2003(平成15)年 5月17日(土)「子どもたちの晩餐」ほか
 2003(平成15)年 6月15日(土)「夏の縁側」・「山椿」
 2003(平成15)年 7月19日(土)「鷺山」・「暗い水」ほか
 2003(平成15)年 8月16日(土)「草の丞の話」・「地べったこさまの詩」ほか
 2003(平成15)年 9月20日(土)「こんにちは!ふしぎ日和」・「白い鳥」ほか
 2003(平成15)年 10月18日(土)「竜神さまのたたり」・「いたずら天邪鬼」
 2003(平成15)年 12月20日(土)「まさ夢いちじく」・「あざらしの乙女」
 2004(平成16)年 1月17日(土)「決断」・「丸窓の少女」
 2004(平成16)年 2月14日(土)「父は空母は大地」・「べっかんこ鬼」ほか
 2004(平成16)年 3月14日(土)「色々想い」・「わたしのいもうと」ほか

ところ 緑のホール

内 容 11月を除く毎月第3土曜日の午後(14:00～15:00)、みのかも「声のドラマ」の会のメンバーによる朗読会が行われました。出演は会所属のグループで、童話、エッセイ、小説などを題材に、思い思いの朗読を上演しました。

(4) まゆの家まつり

と き 2003(平成15)年 11月1日(土)、2日(日)、各日10:00～15:00

ところ 生活体験館「まゆの家」

主 催 まゆの家まつり実行委員会(生活体験ボランティア、伝承料理の会、学習支援ボランティア)

参加料 無料

参加者 一般

内 容 本年第4回目を迎えるまゆの家まつりは、テーマに「ちょっと昔の遊びと暮し～みんなで作って・みて・食べる～」と題して開催しました。ボランティアのみなさんと一緒に昔から伝わる遊びや生業を体験して、楽しく過ごしました。



作る・・・ハタオリ体験・大根鉄砲作り・ワタノミトリ体験・ドングリ細工
紙コマ・紙トンボ作り・アクセサリー作り ほか
みる・遊ぶ・・・坊主めくり、カルタ、昔ばなし、竹馬遊び、竹こっぼ遊び
コマまわし ほか
食べる・・・五平餅試食・おにまん試食

(5) 朗読フェスティバル

と き 2003(平成15)年12月6日(土)、7日(日)

ところ 緑のホール

出演など 113名 来場者延べ600名

内容 第3回(平成8年度)坪内逍遙大賞受賞者・加藤道子氏の朗読講座を機に、
みのかも「声のドラマ」の会(代表:森優美子)が発足して「美濃加茂を朗読
のまちに」と活動し、朗読講座
(指導:放送表現教育センター)
などを行っています。受講生は
学んだ成果の発表会として実施
し、あわせて、指導していただ
いた講師による朗読も行われま
した。



(6) 秋のもりもり劇場

と き 2003(平成15)年11月3日(月) 10:30～

ところ エントランスホール

出演など 市内の人形劇グループ4団体(37人) 来場者延べ200名

内容 秋の一日、文化の森で人形劇を
楽しんでいただこうと市民の企画
により開催。複数の団体が集まっ
て上演する貴重な機会として、企
画側も自己研鑽の機会となりました。



(7) アートボランティアビデオ上映会

「イサム・ノグチ 地球を彫刻した男」

と き 2003(平成15)年11月23日(日) ① 10:00～② 14:00～

ところ 緑のホール

内 容 平成15年度は、市美術展の会
期にあわせて開催しました。世界
的な彫刻家イサム・ノグチの制作
の様子を中心に、その生涯を紹介
したドキュメンタリー作品を上映
しました。



◆みのかも文化の森ボランティア

みのかも文化の森では、2000年10月のオープン当初から、多くの方がボランティア活動をしています。「文化の森で何かしたい」という思いを持ったボランティアの活動は、来館者と文化の森をつなぐ重要なパイプであり、文化の森の大きな特徴になっています。

1. 目的

- ①文化の森と来館者および地域の人々との橋渡しの役割を果たしてもらい、より親しまれる文化の森とするため。
- ②多様な経験や技術、柔軟な発想などを文化の森の事業や運営に生かし、利用者のサービスを充実していくため。
- ③市民の皆さんの自発的な学習の場と社会還元の場として文化の森を有効に利用してもらうため。

2. 各ボランティアの活動内容

- ・展示ガイド・・・主に、常設展示室内にて展示の解説などを行います。
- ・アート・・・文化の森の講座のお手伝いや自主企画のイベントを行います。
- ・生活体験・・・主に生活体験館（まゆの家）・民具展示館において、来場者への解説や講座やイベントでの講師・お手伝いを行います。
- ・学習支援・・・児童・生徒が文化の森で学習する際にお手伝いをします。
- ・伝承料理の会・・・生活体験館のクドを使い、「四季を食べる講座」でこの地域に伝わる料理を教えています。
- ・イベント・・・「森のコンサート」など文化の森でおこなうイベントを中心にお手伝いをします。（平成16年2月から募集をはじめます）

※基本的には、ボランティアの方々の都合の良い時に活動していただいています。

3. その他

資格 18才以上ならどなたでも。経験・性別、美濃加茂市民か否かは問いません。

報酬 無償です。

特典 みのかも文化の森が主催する他館の視察や見学会に参加できます。

企画展等へ団体料金で入場ができます。

活動中、万一の事故に備え、市の負担でボランティア保険に加入いたします。

4. 世話人会と広報紙「つぶらじい」編集委員会

各分野の中で2人ずつ世話人を選出します。5つの分野の世話人と文化の森の職員とで世話人会を構成します。本会は必要に応じて文化の森が会を召集し、その時の議題について話し合います。

また、各分野から1名ずつ広報編集委員を選出し、3ヶ月に一度の頻度で、広報紙「つぶらじい」を発行しています。

5. 研修

ボランティアとして活動するにあたり、必要な知識や経験を学んでいただくために研修会を行います。ボランティア登録したすべての方を対象とした全体研修と個々の分野の、より専門的な知識・経験を得るための個別研修があります。平成15年度中に開催した研修は下記の通りです。

(1) 全体研修

①平成15年4月25、29日 第1回 企画展研修会

企画展「土に残る記憶－旧石器と縄文－」展の展示解説会

②平成15年4月26日 新規ボランティア説明会

新しく文化の森のボランティアに関心のある人に、ボランティアの活動内容や研修について説明し、質疑をおこなう。15名の新しい仲間が加わる。

③平成15年6月7日 第1回 世話人会

今年度の世話人の顔合わせ、昨年度・今年度の事業報告を行う。

④平成15年6月28日 ボランティア交流会

「手回し蓄音機コンサート」：生活体験館で季節の風を感じ、日々の活動や昔の暮らしなどについて語り合う。開催中の「蚕とまゆ展」の展示解説も行う。

⑤平成15年7月12、16日 第2回 企画展説明会

企画展「美濃加茂にサイヤゾウがいたころ」の展示解説会

⑥平成15年9月26日、10月11日 第3回 他館見学研修会

(A) 9/26中山道広重美術館で開催中の企画展「木曾海道六拾九次之内」展を、美術館ボランティアの方の解説で見学。その後、交流会をし、互いの活動を報告しあう。午後からは、中山道ひし屋資料館を見学。



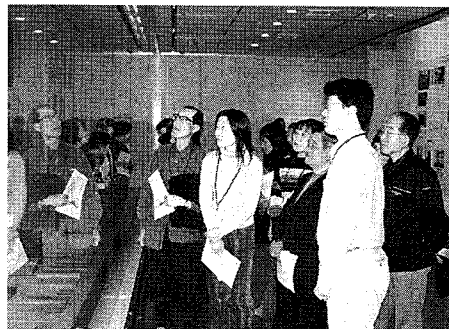
(B) 豊かな自然に囲まれた古今伝授の里フィールドミュージアムで、学芸員の方から館の建設趣旨や展示方針やの説明を受ける。鎌倉時代から室町時代にかけて治めた東氏を記念した資料館、各時代を代表する歌人を紹介をする和歌文学館などの施設を見学。

⑦平成15年9月30日、10月4日 第4回 企画展説明会

企画展「中川ともと坪内節太郎－芝居絵の世界」展

⑧平成15年10月5日 第5回 全体研修会

企画展関連ミュージアムフォーラム「中川ともと坪内節太郎の芸術」(岐阜県美術館 学芸員岡田潔氏)。



⑨平成16年1月25日 第6回 全体研修会

「セントラル愛知交響楽団」ニューイヤークンサートに参加。教養を高める目的で開催。

⑩平成16年2月14、20日 第7回 企画展説明会

企画展「小本章展」と「津田左右吉－その人と時代－展」の展示解説会

⑪平成16年3月13日 第2回 世話人会

15年度の活動などについてまとめを行う。

(2) 個別研修・会議など

□展示ガイド

4/25	旧石器・縄文展研修、打ち合わせ
5/ 2	旧石器・縄文展展示ガイド研修会
7/12	化石展ボランティア研修会
7/16	化石展ボランティア研修会
7/19	一乗谷朝倉氏遺跡見学
7/23	展示ガイド用企画展研修会
9/24	「可児市内史跡」勉強会
10/ 5	可児市史跡見学会・交流会
10/23	「下呂石・湯ヶ峰」勉強会
11/23	「下呂石・湯ヶ峰」現地研修
2/29	ミュージアムフォーラム「縄文時代の年代と時代区分」講演会
3/18	常設展示・考古分野講話

□アートボランティア

4/ 8	アートボランティア定例会 (第 33 回)
4/20	アートな 1 日講座「銅版画」のサポート
5/13	アートボランティア定例会 (第 34 回)
5/20	野外彫刻清掃 (文化の森)
6/10	アートボランティア定例会 (第 35 回)
6/17	野外彫刻清掃 (文化会館)
7/ 8	アートボランティア定例会 (第 36 回)
7/15	野外彫刻清掃 (太田公民館)
8/16	「小本章ワークショップ<自然の色をさがそう>」小本さんをサポート
8/24	アートな 1 日講座「化石レプリカ」のサポート
8/31	野外彫刻清掃 (前平公園)
9/ 9	アートボランティア定例会 (第 37 回)
9/30	野外彫刻清掃 (東図書館)
10/ 7	アートボランティア定例会 (第 38 回)
10/13	野外彫刻清掃 (小山公園)
11/ 1	「小本章ワークショップ<自然の色をさがそう>」小本さんをサポート
11/11	アートボランティア定例会 (第 39 回)
11/23	第 3 回アートボランティア企画ビデオ上映会「イサムノグチ 地球を彫刻した男」
12/21	アートな 1 日講座「高島純さんとクリスマスカードをつくろう」のサポート
1/20	アートボランティア定例会 (第 40 回)
1/25	アートな 1 日講座「シルバークレイ」のサポート

2/ 8～3/21	「小本章展」の作品解説
2/10	アートボランティア定例会（第41回）
3/13～3/21	「小本章ワークショップ展」の作品解説
3/ 9	アートボランティア定例会（第42回）

□生活体験

4/11	生活体験ボランティア運営委員会（世話人推薦と4・5月の活動について）
5/10	生活体験ボランティア運営委員会（蚕とまゆ展03の準備について） 生活体験ボランティア全体会（年間事業計画と世話人選出について）
6/13	生活体験ボランティア運営委員会（ボランティア交流会について、七夕飾りについて）
7/11	生活体験ボランティア運営委員会（つぶらじい編集委員推薦について）
8/ 8	生活体験ボランティア運営委員会（8月の活動について）
9/12	生活体験ボランティア運営委員会（9・10月の活動について）
10/ 4	生活体験ボランティア全体会（まゆの家まつりの準備について）
11/14	生活体験ボランティア運営委員会（11・12月の活動について）
12/ 5	たこづくり講習会（他の分野のボランティアも誘い、たこの作り方を学習）
12/19	生活体験ボランティア運営委員会（門松づくりの準備と12・1月の活動について）
1/ 7	生活体験ボランティア運営委員会（暮ラシカル道具展04の準備と1月の活動について）
2/13	生活体験ボランティア運営委員会（2月の活動について）
3/12	生活体験ボランティア運営委員会（来年度事業計画について）
3/19	まゆの家大掃除・生活体験ボランティア全体会 (来年度事業計画についてとまゆの家大掃除)

□学習支援

4/10	学習支援ボランティア顔合わせ会
5/ 7	「土に残る記憶」展 勉強会
6/24	お散歩学習会・秋の講座相談会
9/ 5	「森の音づくり講座」準備会
9/ 6、9/ 7	「森の音づくり講座」 (1)10:30～、(2)13:30～



□伝承料理の会

4/ 1	手打ちそばリハーサル
5/ 9	山菜ごはん、利休まんじゅうリハーサル
5/30	朴葉餅、ミョウガ寿司リハーサル
11/18	手作りこんにゃくりハーサル
2/15	じねんじょ料理リハーサル
3/ 9	伝承料理の会総会
3/23	研修会

※学校活用、文化の森以外が主催する研修講座等での講師としての活動は含まない。

6. 平成15年度の最終登録数

	展示ガイド	アート	生活体験	学習支援	伝承料理	イベント
平成15年度	12	25	41	31	46	1
全体のべ	156名					

※平成15年度の登録人数は、最終の人数です。登録人数は、150名。

◆教育普及

1. 各種講座

(1) 『定期講座』

美濃加茂市民ミュージアムでは、より深く学びたいという市民の方に、年間数回をとおして学ぶ講座が定期講座です。それらは、市民ミュージアムの特色を生かした内容となっています。

平成15年度開講の定期講座は、「陶芸」「美術品鑑賞入門(陶芸)」「機織り」「声のドラマ(朗読)」「カラーを知る」の計5講座です。

名 称	開催期日	回数	受講者
陶芸講座	5月14日～	8	15人
美術品鑑賞入門(陶芸)	6月18日～	4	19人
機織り講座(初級)	5月9日～	10	5人
声のドラマ(朗読)	6月7日～	6	124人
カラーを知る講座	11月6日～	4	26人
機織り講座(中級の①)	11月7日～	10	5人
機織り講座(中級の②)	1月16日～	10	5人

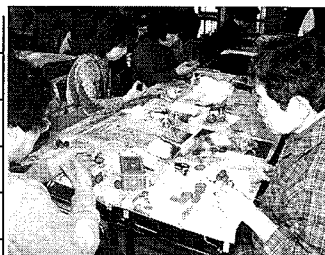


(2) 『アートな1日講座』

来館者が、気軽に美術関連の体験を行うことができる講座です。当館には、陶芸制作に伴う各種施設やフィールドとしての森に恵まれており、それらに関連したものや企画展とタイアップさせた内容で当日受付を基本として毎月開催しています。

名 称	開催日
銅版画(ドライポイント)	4月20日
縄文アート(勾玉アクセサリー)	5月25日
陶芸(手びねり+ろくろ)	6月22日
昆虫クラフト	7月27日
化石レプリカ	8月24日
陶芸(絵付け・ペアマグカップ)	9月28日

隈取アート	10月12日
森のスイーツ	11月23日
高島純とクリスマスカード	12月21日
シルバークレイ	1月25日
まゆびな	2月22日
陶芸（手びねり+ろくろ）	3月28日



(3) 『森と暮らしの体験講座』

① 「四季を食べる」

市民ミュージアムで活動するボランティアである「伝承料理の会」と共に当日の来館者が、この地域で伝統的に伝わる四季折々の料理を作って、食べる体験をする講座です。「伝承料理の会」と一緒に語り合いながら、食をとおして昔の暮らしを学びます。

名 称	内 容	開 催 日
四季を食べる①	ぶんだこ（草餅）	4月20日
四季を食べる②	山菜ごはん	5月13日
四季を食べる③	手打ちそば	5月18日
四季を食べる④	朴葉餅	6月 3日
四季を食べる⑤	利休まんじゅう	6月15日
四季を食べる⑥	ところ天	7月 1日
四季を食べる⑦	ミョウガ寿司	7月20日
四季を食べる⑧	梅料理	8月 5日
四季を食べる⑨	すいとん	8月17日
四季を食べる⑩	おはぎ	9月 2日
四季を食べる⑪	栗おこわ	9月21日
四季を食べる⑫	おにまん	10月 7日
四季を食べる⑬	へぼご飯	11月11日
四季を食べる⑭	手作り豆腐	11月16日
四季を食べる⑮	手作りこんにやく	12月 2日
四季を食べる⑯	餅つき・大歳のゴッツオ	12月21日
四季を食べる⑰	干し柿料理	1月18日
四季を食べる⑱	ぎんなんおこわ	2月 3日
四季を食べる⑲	ひなあられ・粕汁	2月15日
四季を食べる⑳	ふるさと料理（じねんじょ）	3月 2日

② 「くらし体験」

昔なつかしい暮らしを体験する講座です。生活体験館「まゆの家」で、当館で活躍する「生活体験ボランティア」の経験と技を学びます。

名 称	内 容	開 催 日
くらし体験①	季節を染める（春）	4月26日
くらし体験②	お茶摘み体験	5月11日
くらし体験③	季節を染める（夏）	8月23日
くらし体験④	季節を染める（秋）	10月25日
くらし体験⑤	達人縄ないをする	11月25日
くらし体験⑥	ミニ門松づくり	12月20日
くらし体験⑦	たこ作り	1月10日
くらし体験⑧	季節を染める（冬）	1月24日



③ 「生活体験館まゆの家 年中行事」

私たちの暮らしは、一年のうちで決まった時期に行われる儀式や催し物によって季節が意識されています。まゆの家でも来館者と共に行っています。

名 称	開 催 日
鯉のぼり立て	4月21日～5月5日
手回し蓄音機コンサート(ボランティア交流会)	6月28日
七夕かざり	6月28日～7月7日
年末の準備（門松作り）	12月20日～1月8日
鏡開き	1月11日
節分	2月 3日
ひなかざり	2月18日～3月3日



④ 「里山体験塾」

市民ミュージアムの敷地内に広がる森を活動の場として、「森と林の会」の指導のもとで、森の仕事や森の恵みを生かした遊びなどを体験します。

名 称	内 容	開 催 日
竹の子掘り体験	自然観察の森で竹の子掘り体験	4月26日
山野草摘み	食べられる野草・食べられない野草の見分け方	5月10日
どんぐりころころ	拾ったどんぐりで工作	10月11日
森の間伐と落ち葉集めと基地づくり	組んだ枝の廻りに、集めた落ち葉で基地づくり	12月 6日
簡単な炭づくり	健康の森で簡単な炭づくり体験	2月14日
椎茸の原木づくり	原木に椎茸菌を打つ体験	3月 6日



⑤「自然観察教室」

文化の森とその周辺から、「美濃加茂自然史研究会」を中心とした講師により、四季をとおして里山の自然を観察します。

名 称	内 容	開 催 日
ゲンジボタルの観察	市指定文化財ゲンジボタルの観察	6月14日
美濃加茂の地層探検	市内と周辺の野外の地層の見学	7月20日
地質と岩石の観察	中村累層の岩石から化石を観察	8月23日
虫の音を聞く会	秋の夜、森で虫の音を聴く	9月 6日
秋のキノコ観察	森のキノコの生態観察	10月13日
野鳥観察会	木曾川に飛来している野鳥の観察	12月14日
望遠鏡づくりと天体観測	親子で望遠鏡を作って夜空の観測	12月14日
早春の野草観察	森の周辺に見られる早咲きの花の観察	3月27日



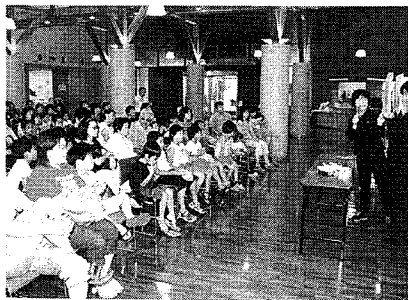
(4)『ミュージアムトーク』

地学、自然史、考古、歴史等の各分野から構成される常設展示室の解説を来館者に対して行うものです。一方向の説明ではなく、参加者の疑問に答えながら進めて行きます。定期的に行うものと団体見学時に行うものがあります。日本語だけではなく、英語、ポルトガル語でも行いました。

2. 夏休み子ども講座

市民の方が地域の歴史や自然、文化に目を向け、次世代に受け継がれていくことを願うという観点から、児童・生徒が夏期休暇の期間中に親子参加型の講座を企画しました。

名 称	内 容	開 催 日
ナイトサファリ①	トラップ(わな)を使って昆虫	7月24日
ナイトサファリ②	虫などの夜の活動を観察	7月25日
ほねほねきょうりゅうのほね	ペーパサート	7月26日
子ども1日学芸員	資料の調査・整理体験	7月31日
化石発掘体験	化石発掘体験(岐阜県瑞浪市)	8月 6日
子どもそば打ち体験	こねる、のばす、切る	8月 7日
蚊帳でうたたね	昔なつかしい「蚊帳」をつる	8月10日



3. その他のイベント

(1) ミュージアムフォーラム

『戸入村平遺跡の発掘調査』『美濃加茂市の旧石器時代遺跡』

と き 2003 (平成 15)年 5 月 10 日(日) 14:00 ~ 15:30

ところ 緑のホール

内 容 講師として、坂東 肇氏 (元 (財) 岐阜県文化財保護センター) をお迎えし、「戸入村平遺跡の発掘調査」と題して講演いただきました。企画展「土に残る記憶-旧石器と縄文-」展の関連イベントとして、岐阜県の代表的な縄文時代遺跡の一つである戸入村平遺跡の発掘調査の様子をスライドで紹介していただきました。また、当館学芸員により市内の旧石器時代の遺跡についても解説しました。

(2) 文化の森3周年記念祭 野外劇「冬の夜ばなし」

と き 2003 (平成 15)年 9 月 14 日(土)開演 18:00

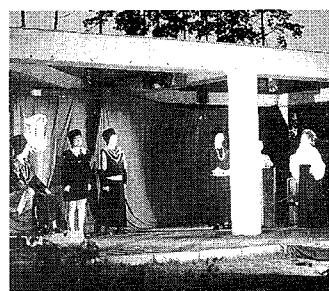
ところ みのかも文化の森

出 演 劇団 近代座

入場料 無料

客 席 300 席

内 容 坪内逍遙生誕の街の事業として、また、文化の森オープン3周年の記念事業として開催いたしました。野外劇「冬の夜ばなし」は、長年美濃加茂市の市民演劇に寄与していただいている根本嘉也氏主宰する「劇団近代座」(東京)が上演しました。逍遙訳のシェークスピア劇は、今回で10年を迎え市民に定着し、楽しんでもらうことができました。

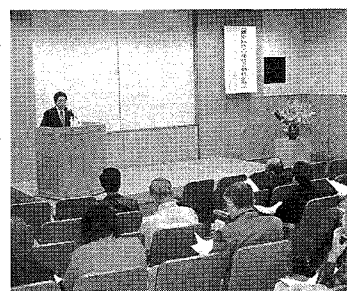


(3) ミュージアムフォーラム『縄文時代の年代と時代区分』

と き 2004 (平成 16)年 2 月 29 日(日)14:00 ~ 15:30

ところ 緑のホール

内 容 講師として、山本直人氏(名古屋大学大学院文学研究科教授)をお迎えし、「縄文時代の年代と時代区分」と題して講演をいただきました。考古学で用いられる「時代」や「時期」、二種類ある「年代」の持つ意味や最新の年代決定法などについて、わかりやすく紹介していただきました。



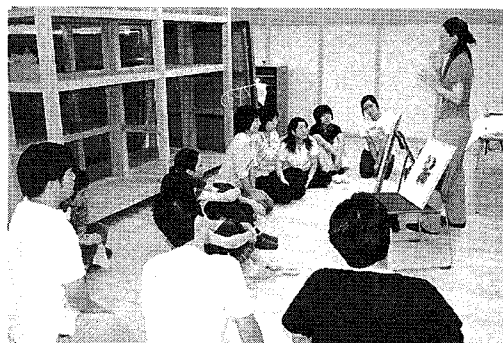
4. 博物館実習

博物館において、資料の収集、保存、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項を司る職員が学芸員です。学芸員資格は、国による資格試験もしくは大学で必要な単位を修得することによって取得することができますが、博物館学芸員

養成課程をもつ各大学の要請により、下記のとおり実習を実施しました。

- ・期 間 2003（平成15）年8月27日（水）～8月31日（日） 9:00～15:40
- ・受入人員 11名
- ・実習内容

日 程	午 前	午 後
8 / 27（水）	オリエンテーション・館内見学	学芸員と博物館の仕事、展示と展覧会の進め方
8 / 28（木）	図録の作成と資料の写真撮影、保存住居の整備	考古資料の取り扱いと整理
8 / 29（金）	資料の燻蒸作業、博物館と学校のかかわり	収蔵庫の環境と管理
8 / 30（土）	博物館資料の取り扱い	民俗資料の取り扱いと整理
8 / 31（日）	野外彫刻の整備	ボランティアと市民活動、博物館実習の反省とレポートの作成



◆虫菌害対策

①資料等の燻蒸

収集した資料は原則として一時保管場所へ搬入し、燻蒸後、収蔵庫に搬入します。

《移動燻蒸車での資料燻蒸》

燻蒸施設のない当館では、専門業者へ委託して実施しています。移動燻蒸車の容量は約82.8立方メートルで、薬剤はヨウ化メチルを使用し、平成15年度は2回行いました。

《民具展示館・民具収蔵庫の燻蒸》

展示室や収蔵庫への出入りなどに伴い、害虫などが侵入します。資料に適する環境を保つために、燻蒸を行います。平成15年度は民具展示館・民具収蔵庫の燻蒸を薬剤ブンガノン（商品名）を使用し、1回行いました。

②モニタリング

専門業者によるモニタリング調査を行っています。展示室、収蔵庫等、館内数カ所に粘着トラップを設置し、夏春の2回調査を行いました。調査により館内の虫の発生状況を把握しています。



◆学校活用の理念と現状

1. 学校教育とみのかも文化の森

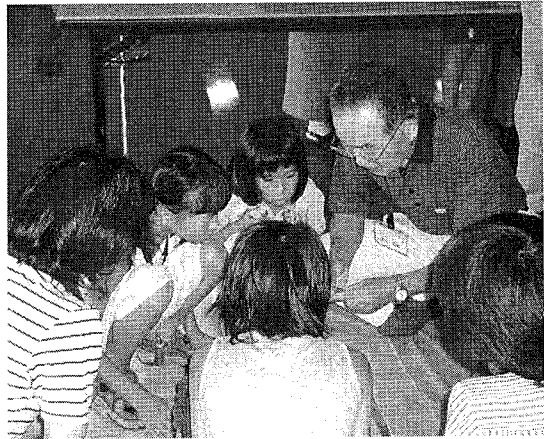
(1) 小中学校が博物館を利用する意味

みのかも文化の森市民ミュージアムは、設立準備段階から市内小中学校の教員で構成する委員会を立ち上げ、学校との連携を重点として進めてきました。すでに平成元年度告示の『小学校学習指導要領 社会』には、「博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行い」とあり、同じく「中学校学習指導要領 社会」には、現行のと同文が記されています。そして平成10年度においても、さらに現行の学習指導要領では、各学年の指導計画を作成するに当たって社会・理科・図画工作・美術、そして総合的な学習の時間等に、博物館や美術館・郷土資料館等の見学・調査・活用を図ることが示されています。多くの教科でまた生涯学習の面から、ますます博物館と学校教育の関係が重要になってきました。

これは、「生涯にわたる学びの場」としてミュージアムをとらえ、それを自分の学びへと取り込める人を育てることと重なります。みのかも文化の森市民ミュージアムには人・自然・文化に関する「本物」が収集・展示されており、それらについて調査・研究する学芸員がいます。そして児童生徒にとっては、生涯にわたって学んでいる先輩と言えるボランティアがいます。さらに、その要素を学校と結ぶ学習係がいます。児童生徒がここで具体的に学習したり、人との関わりから学んだりする体験ができるように、組織的に仕組むことによって、学校が意図する学習のねらいを、より効果的に実現させることが可能です。

(2) みのかも文化の森の学習支援体制と設備の特色

みのかも文化の森にある様々な資料やボランティア、そして専門の学芸員を活かすことによって、幅広い体験学習と深まりのある学習が可能になります。このような学習は、小中学校がみのかも文化の森を計画的・継続的に利用することが前提となります。ここでの学習は、教科学習や総合的な学習の時間のように、学校の年間指導計画（カリキュラム）に位置付いた学習であり、単元の目標を達成するための学習であることが必要です。学校の授業と同様に、また森の学校でしかできない授業ができるようにと、学校と文化の森をつなぐ様々な支援体制をつくってきました。



①学校教育活動を具体的に結ぶ文化の森学習係

学校とみのかも文化の森との連携を密にし、各教科・領域の年間計画に基づいた単元目標を達成するための継続的・計画的な授業とするために、みのかも文化の森には学習係が位置づけられています。学習係長は教育委員会学校教育課との兼務であり、教諭がその職

にあります。学習係は現在4名で構成され、学校との連絡調整や学習内容の検討、来館した児童生徒の指導等を行っています。その中で最も大切にしているのは、事前の打ち合わせです。学習のねらいを共通理解し、学習内容や時間、担任や学習係、学芸員、学習支援ボランティアの役割分担を具体的かつ明確にするために、これは欠かせない営みです。

②教員で構成された文化の森活用委員会

文化の森活用委員会は、併設する教育センターに事務局を置いています。代表学校長を委員長に、市内の小中学校の教諭で構成され、活動プラン作りや自校への活動紹介、活動の評価などを行っています。

③TAとして児童生徒を支援する学習支援ボランティア

みのかも文化の森では展示ガイド・アート・生活体験・伝承料理・イベント・学習支援の6分野の各ボランティアがそれぞれの活動を支えています。学校活用においては主に学習支援ボランティアが、児童生徒の引率や館内の案内、学習の補助などの支援を行っています。現在、主婦・教員退職者・大学生等、33名の登録があり、各自の都合に合わせて活動しています。ミュージアムと児童生徒を、地域で育む大きな原動力となっています。

④学校と森・施設を結ぶ「ぶんぶんバス」

みのかも文化の森は市のほぼ中央に位置していますが、徒歩で来館して授業時間を十分確保できる学校は1校です。この便宜を図るために準備段階から要望し、導入したのがみのかも文化の森専用のバスです。「ぶんぶんバス」と命名されたこの40人乗りのバスは、市内小中学校とみのかも文化の森間の送迎だけでなく、必要に応じてみのかも文化の森と他の施設間の送迎も行っています。

⑤一日過ごせる給食配送設備

事前に予約をすることにより、終日の活動の際には、学校と同様みのかも文化の森でも給食をとることができます。保健所と市給食センターの指導を得て、給食用ワゴン・冷蔵庫・配膳台等を用意しました。衛生面にもよく配慮をしています。



2. みのかも文化の森における学習の実際

(1) 文化の森で授業を行うプロセス

①学校活用の年間の割り振り

新年度が始まるまでには各学校の利用日を決めておきます。年度末に各学校の利用できる優先日を割り振り、学習係が各学校へ連絡します。同時に学習係は、みのかも文化の森の各施設を学校が利用できるような押さえておきます。各学校では教務主任が学校の行事予定を考慮して学習係と調整を行い、新学期を迎えます。

②学習活動のねらいと概要を報告

利用日が近づくと、みのかも文化の森でどの教科（領域）でどのような活動を行いたい
か、担任から学習係へ報告があります。美濃加茂市内の学校は、活動の概略が書き込める
活動案テンプレートやバスの申請書など、記入して学習係に送れるようにネット（逍遙ネ
ット）で結んであり、これを共に活用します。保育園や市外の学校とは、電話やFAX等
で連絡を取り合います。

③担任と学習係との事前打ち合わせ

授業のおよそ2週間前に担任にみのかも文化の森に来てもらい、略案をもとに学習係と
打ち合わせを行います。時には学芸員も参加し、学習を練りあいます。学習のねらいや内
容について、双方で準備するもの、バスの送迎時刻、昼食の有無など、学校側とみのかも
文化の森側とが共通理解を得られるように、じっくりと話し合うようにしています。

④学習活動案（細案）の作成

事前打ち合わせをもとに、学習係が学習活動の細案を作成します。担任の指導を中心と
しながらも、学芸員や学習係、学習支援ボランティアがどの段階でどのような支援を行う
かを明確にし、関係者全員が学習のねらいを共通理解できるように配慮します。活動案は、
学校にはE-mailで届けるとともに、学習支援ボランティアを含むスタッフにも配布します。

⑤みのかも文化の森での授業

学校と同様、授業を中心に進めるのは担任です（T₁）。授業の中に学芸員が入る場合
はT₂となり、学習係がT₃、学習支援ボランティアがT₄となってティームティーチング
を行い、丁寧な支援が行えるように心がけます。

⑥1年間の活用をHPや実践集で公開

1年間に行った活動を学年毎にまとめ、さらに文化の森活用委員会や学芸員考案による
新プラン、利用したワークシート類を編集して「活用の手引き・活用実践集」を作成しま
す。これが次年度の教員の手引き書となります。文化の森ホームページでは学習活動の全
紹介もしています。

（2）平成15年度 学校活用例

①はじめに

開館3年半目となり、イベント的な活動
から、各校の特色に合わせた継続的な活動
へと移行してきました。活用校のべ110校
余り、ここでそのいくつかを紹介いたしま
す。



②あきはたのしいね（小学校2年生 生活）

敷地内の自然観察の森を使って、「あきのどうぐづくり」をしました。木の実や木の葉、枝など森の中にあるものをうまく利用し、学習支援ボランティアと共に作ってみるなど、人との関わりの良さを体感した活動でした。これは岐阜県生活科研究大会が当館を授業会場として行われた時の授業の様子です。



③収穫の喜びを共に味わおう

（小学校5年生 総合的な学習の時間）

自分達で育てた米を収穫し、関わった方々にお礼をしようと、伝承料理の会の人から作り方を学び、ともに「ごへいもち」作りをしました。身近な食文化に結びついた活動になりました。

④私たちの地域

（中学校2年生 総合的な学習の時間）

中学校の活用はオリエンテーションや講座を全員で受ける活動から、総合的な学習の時間の取組へと活用内容がかわってきました。いくつかのグループに分かれて学芸員から専門的な話を聞いたり、文化の森のボランティアから経験談を伺ったりするなど、自ら学ぶ姿がありました。地域からまた歴史から、自分の課題を追究していく資料を求めた活動でした。



3. 成果と課題

（1）成果

来館者数の全体を占める割合は小学校が大半ですが、中学校は「総合的な学習の時間」における人材と場の設定に、文化の森をうまく生かし、保育園は遊びや親子活動にと、活動内容が広がってきました。また毎年何回かの学習体験の積み重ねより、児童生徒が「公共施設でのマナー」を体得し、さっと学習に入れるようになってきました。教員には「見通して活用する」という方向へ、さらに着実なねらいを持って来館されるようになってきました。ボランティアも体験を重ねることによって、時には児童生徒を見守り手をださないなど、支援の仕方が洗練されてきました。

（2）課題

みのかも文化の森にある豊かな人・もの・こと・場を学校に伝え、共にアイデアや情報を生み出しつつ、博学連携の場、生涯教育を支援する場として、みのかも文化の森のリピーターを、すべての年代層に増やしていけたらと考えています。

◆教育センター

平成4年に、学校教育だけでなく、家庭・社会教育を含めた美濃加茂市の教育の拠点として教育センターが開設されて12年目を迎えました。文化の森に市民ミュージアムとの複合施設としてスタートして4年が経過しました。

1. 研修

(1) 研修講座



(教育の拠点として、科学作品移動展開催)



(センター講座「琴の世界」より)

平成15年度の研修講座は、4コース（教科指導・心の教育・市民参加）26講座を実施しました。

教員の指導力向上を目指して、可茂教育振興事務所学校教育課の指導主事を講師として、国語、社会、算数数学、理科、英語の5教科の教科指導講座を実施しました。

可茂地区の教職員にも呼びかけ、市外から39名の教職員の参加がありました。また、教養研修として「琴の世界」や「陶芸の世界」を実施し大変好評でした。

児童・生徒の学力の低下が懸念され教員の資質が問われるようになり、教育センターとして果たさなくてはならない役割がますます増大しています。

教育講演会は、京都ノートルダム女子大学の加藤 明先生を講師として迎え、『新しい教育課程における指導と評価～学びの育ちと姿の実現をめざして～』について講演いただきました。教員の資質向上につながる具体的なお話をいただき、「今後の指導に生かすことができます。」といった感想が寄せられました。

また、市民参加の「お月見コンサート」は、今年で4回目を迎えました。今年には志向を凝らし例年演奏いただく笛師 田中敏長先生とみのかも文化の森に活動の拠点を置く「朗読の会」の方とのジョイントコンサートを行いました。今まで以上に参加者のマナーが向上し、朗読と笛の音が共鳴する素敵な夜のひと時となりました。約350名の参加でした。

今年度の研修講座等参加者は、市民含めて約1,500名となりました。文化の森で実施した美濃加茂市教育研究会の科学作品展（全国優秀作品展）2,446名参加や子ども2,484名参加を含めると約6,500名の参加者となりました。

(2) 教育センター広報「ひびきあい」・「ひびきあい壁新聞」の発行

教育センターの活動をよく理解していただくために、広報紙や壁新聞を今年度も発行しました。広報「ひびきあい」は、センターの活動、学校教育の現状、教育の動向などを内容としました。市内保幼小中教職員、県内外の教育センター等教育機関、市民関係機関等に配布しました。また、「ひびきあい壁新聞」は、中央公民館、中央図書館、福祉センターに掲示し、市内各学校の特色ある教育活動を市民に紹介しました。

(3) 教材・教具・図書資料の貸し出し

図書資料をはじめ、教育センターの所有する教材・教具・資料を紹介し貸し出ししました。

2. 教育支援（教育相談・あじさい適応指導教室）

素晴らしい自然と施設そして人に恵まれた「文化の森」へ、あじさい教室や教育相談窓口が移転して4年目が終わりました。今年度から新事業SSN（スクーリング・サポート・ネットワーク）が始まり、可茂地区4適応指導教室が連携を密にして体験活動を進めました。また、管内各地からの相談や来客者の多かった年でした。

(1) 教育相談

①相談件数等

不登校児及び保護者等の教育相談活動やカウンセリングを行った。電話や来所相談が休日・祭日にも受けられるような態勢を今年度もとってきました。次の表がその結果です。いずれも昨年度を上回っています。内容的には、不登校に関することが80%を超えていますが、軽度発達障害と思われる相談も増加しています。

年度	来室相談		電話相談		家庭相談		学校訪問		合計	
	H14	H15	H14	H15	H14	H15	H14	H15	H14	H15
計	119	136	118	119	79	234	395	358	711	847

②相談員研修会の実施

学校教育相談員等の資質向上の為に、次のように開催しました。研修の成果が、不登校児の減少に成果として表れてきています。

ア 大学教授による指導研修	3回
イ 心理治療士による指導研修	7回
ウ 精神科医による指導研修	0回
エ 実践交流	17回



(大学教授による指導研修)

(2) あじさい教室（適応指導教室）の経営

学校に登校できない児童・生徒をあじさい教室に受け入れて、学習、生活、体験活動を自主的に行えるように支援してきました。SSN（スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業）の指定を受け、可茂地区の4つの適応指導教室が連携して人や自然と触れ合う体験活動を行いました。体験を積み重ねることで、心を開き自信を持って生活することを目指しました。文化の森の自然や施設、そこに集まって来る人々等人的・物的環境を生かしたプログラムを用意しました。

(主な体験活動)

ア、SSN 体験活動(山登り・陶芸等)	1回
イ、野外学習(潮干狩り等)	11回

ウ、調理実習(ちらし寿司等) 10回

エ、その他 編み物教室・干し柿作り・餅つき等

この1年間に来所した児童生徒は、小学生4人、中学生22人、計26人でした。そのうち12人は、年間を通して来所しました。市内不登校児童生徒数(年間最多数)24人なので、来室割合は非常に高いと言えます。年間のべ人数は634人でした。また、1日の最到来室人数は11人でした。今年度学校に復帰できた児童生徒は、卒業後の復帰を含めて、小学生4人、中学生19人でした。多くの児童生徒が、学校に復帰できた事は、教室経営の成果として喜ばたい。



(伊吹山登山)

◆施設の利用状況

1. 月別来館者数

月	常設・企画展	学校活用	教育相談等	貸館・講座等	その他	合計
4月	3,423	191	331	2,365	693	7,003
5月	3,352	324	360	6,994	1,117	12,147
6月	2,345	847	294	4,329	936	8,751
7月	4,291	700	713	2,481	873	9,058
8月	4,503	0	556	2,859	817	8,735
9月	3,751	587	417	7,375	1,227	13,357
10月	2,634	1,418	774	3,719	965	9,510
11月	6,366	1,603	391	8,087	1,803	18,250
12月	1,452	567	373	3,388	646	6,426
1月	3,984	805	437	1,883	772	7,881
2月	2,983	451	479	1,992	639	6,544
3月	2,612	212	246	1,952	506	5,528
合計	41,696	7,705	5,371	47,424	10,994	113,190

※「その他」には視察者等含まれます。

2. 視察状況

(上段:回数、下段:人数)

月	行政関係	教育・学校関係	その他	合計
4月	2 回	0 回	2 回	4 回
	4 人	0 人	53 人	57 人
5月	1 回	0 回	1 回	2 回
	10 人	0 人	3 人	13 人
6月	0 回	3 回	3 回	6 回
	0 人	102 人	39 人	141 人
7月	1 回	1 回	1 回	3 回
	25 人	15 人	10 人	50 人
8月	3 回	0 回	1 回	4 回
	15 人	0 人	8 人	23 人
9月	1 回	0 回	1 回	2 回
	1 人	0 人	12 人	13 人
10月	1 回	2 回	2 回	5 回
	1 人	46 人	54 人	101 人
11月	2 回	3 回	1 回	6 回
	35 人	87 人	22 人	144 人
12月	0 回	1 回	1 回	2 回
	0 人	12 人	50 人	62 人
1月	1 回	0 回	1 回	2 回
	40 人	0 人	16 人	56 人
2月	0 回	1 回	1 回	2 回
	0 人	20 人	24 人	44 人
3月	1 回	0 回	0 回	1 回
	2 人	0 人	0 人	2 人
合計	13 回	11 回	15 回	39 回
	133 人	282 人	291 人	706 人

※ 行政関係には、官公庁職員、県市町村議会など。

教育・学校関係には、教職員(小中学校、保育園)の研修、家庭教育学級など。

文化の森関係には、文化の森に関わりのあるボランティアなどの団体・関係者など。

その他には、自治会関係者、民生児童委員、マスコミ関係、サークルなど上記の2区分に含まれない団体等をさします。

3.貸館状況

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
研修室	5	436	6	119	11	414	13	509	9	272	8	668	15	824	16	2,674	12	353	16	456	12	281	11	327
会議室	23	300	15	300	20	961	20	541	20	396	15	702	23	699	28	785	18	342	15	300	17	288	18	202
工芸室	6	82	10	162	11	288	11	203	10	280	6	85	14	588	12	400	8	352	4	50	11	163	14	298
陶芸室	12	134	11	133	15	187	18	210	11	215	14	177	14	165	20	2,312	16	340	11	193	13	210	13	169
緑のホール	11	836	8	1,541	12	909	12	840	8	587	7	587	15	1,470	14	2,937	11	794	9	548	9	554	9	701
アトリエ	1	4	1	4	0	0	1	4	2	121	1	4	2	152	4	306	1	8	1	10	1	7	0	0
調理室	0	0	0	0	1	24	2	70	2	111	1	30	2	380	1	23	0	0	0	0	0	0	0	0
生活体験館	0	0	0	0	1	24	2	70	2	101	1	30	2	330	2	33	1	144	0	0	0	0	1	200
市民ギャラリー	0	0	1	900	3	1,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	701	0	0	0	0	0	0
エントランスホール	2	235	1	43	2	393	1	43	2	110	2	666	2	600	1	2,000	1	20	1	357	0	0	0	0
展示ホール	1	30	0	0	1	14	1	7	1	300	1	2,244	0	0	1	150	2	700	0	0	0	0	1	90
計	61	2,077	53	3,202	77	4,814	81	2,497	67	2,493	56	5,193	89	5,158	99	11,620	72	3,754	57	1,914	63	1,503	67	1,987

施設の利用回数・人数には文化の森の主催行事は含まれません。

1つの団体が同じ日に2つ以上の施設を利用している場合は、両方の施設で人数をカウントしてあります。

また、同じ団体が同じ日に午前・午後・夜間の区別のうち、2つ以上の区別を利用している場合は、当該団体としての利用回数は1回としてカウントしてあります。

4. 来館者アンケート

みのかも文化の森では、企画展開催時に来館者アンケートを実施しました。
本結果は、下記日程でおこなった来館者アンケートをまとめたものです。

・実施日と企画展名

平成15年4月3日～4月13日 「座馬 井邨」展

平成15年4月23日～5月25日 「土に残る記憶-旧石器と縄文-」展

平成15年7月10日～8月31日 「美濃加茂にサイやゾウがいた頃

-美濃加茂の大地と化石-」展

平成15年9月17日～10月26日 第22回岐阜県移動美術館

「中川ともと坪内節太郎-芝居絵の世界」展

平成16年1月10日～2月1日 「写真で見る昭和の風俗」展

平成16年2月8日～3月21日 「小本章」展

平成16年2月8日～3月21日 「津田左右吉-その人と時代-」展

総回収数 242枚

1. どちらからお越しですか？

美濃加茂市 72名 市外（県内） 117名 岐阜県外 49名

2. あなたの年齢は？

10代未満 1名 10代 3名 20代 12名 30代 18名

40代 34名 50代 69名 60代 64名 70代以上 26名

3. あなたの性別は？

男性 102名 女性 112名

4. 文化の森までどのように来られましたか？（交通手段について、複数回答可）

自動車 207名 鉄道 14名 コミュニティバス（あいあいバス） 1名

駅から徒歩 6名 自転車 2名 その他 5名

5. どなたと来館されましたか？

一人で 74名 家族で 70名 友人と 56名 その他 9名

6. 何回目のご来館になりますか？

初めて 116名 2回目 16名 3～5回目 34名 6回目以上 72名

7. 企画展示についてお聞かせください。

○企画展を何でお知りになりましたか？（複数回答可）

友人などから 34名 文化の森のニュースや案内チラシ・ポスター 117名

新聞・雑誌など 44名 インターネットから 10名 他の博物館で 15名

その他 33名

○作品や展示資料は満足でしたか？

満足 136名 やや満足 54名 普通 30名 やや不満 3名

不満 0名

○入場料はいかがでしたか？

□満足 126名 □やや満足 32名 □普通 69名 □やや不満 5名
□不満 2名

○展示や解説の内容はわかりやすかったですでしょうか？

□とてもわかりやすい 66名 □わかりやすい 107名 □普通 49名
□やや説明不足 8名 □説明不足 1名

○今回の企画展は楽しかったですでしょうか？

□とても楽しかった 53名 □楽しかった 104名 □普通 58名
□ややつまらない 5名 □つまらない 0名

8. 文化の森へのご意見、ご要望をお聞かせください。

- ・はじめてきました。よい環境です。
- ・多くの学者、文人、芸術家を取りあげてください。
- ・静かでよいところです。企画展などを知る方法が少ないと思います。
- ・近隣地域へもっと周知してほしい（イベントなど）
- ・朗読を聞きにきました。企画展との関連朗読会とてもいいと思います。
- ・よく出来ていて関係者の皆様に敬意を表します。
- ・展示によって、より身近によい勉強になりました。今後も良い展示を期待します。
- ・この様な企画も良いことだと思います。改めて、自分の住んでいるところをよいところと思います。こどものふるさととして嬉しいことと思います。
- ・津田左右吉という、むづかしいイメージの人物を、こどもにもわかりやすく展示してあった。
- ・古代史に関心をもっていたので来てよかった。
- ・展示スペースがもっとあってもよかったのでは？
- ・環境もよく立派な内容の展示でした。
- ・設備が整っており、まわりの環境もよくてよい。
- ・市民の文化向上に努力いただき感謝します。
- ・美濃加茂の文化の発信基地となるのを期待します。
- ・案内してくれる人がいたら楽しく見れたかなと思いました。
- ・車以外の交通手段がないので少々不便に思う。
- ・美しい施設で、いつも感心しております。職員の方々の対応がとてもいいです。
- ・葉の化石や巨大パズルが楽しかった。ゾウの牙が大きかったからびっくりした。
- ・これからも色々な講座を催してほしい。外国の方と交流できる様な講座も催してほしい。
- ・子供心に戻って、生き物（土の中）とか、観察に参加したいです。
- ・シンポジウムに参加しに来たが、受付の対応が不十分であると感じた。資料集があるなど、口で説明すべき。
- ・入場者がすこし少ない感じがします。日本昭和村とタイアップされてはどうか。
- ・中濃地区の文化学習の拠点になってください。

（主な意見や要望を抽出）

◆広報活動の記録

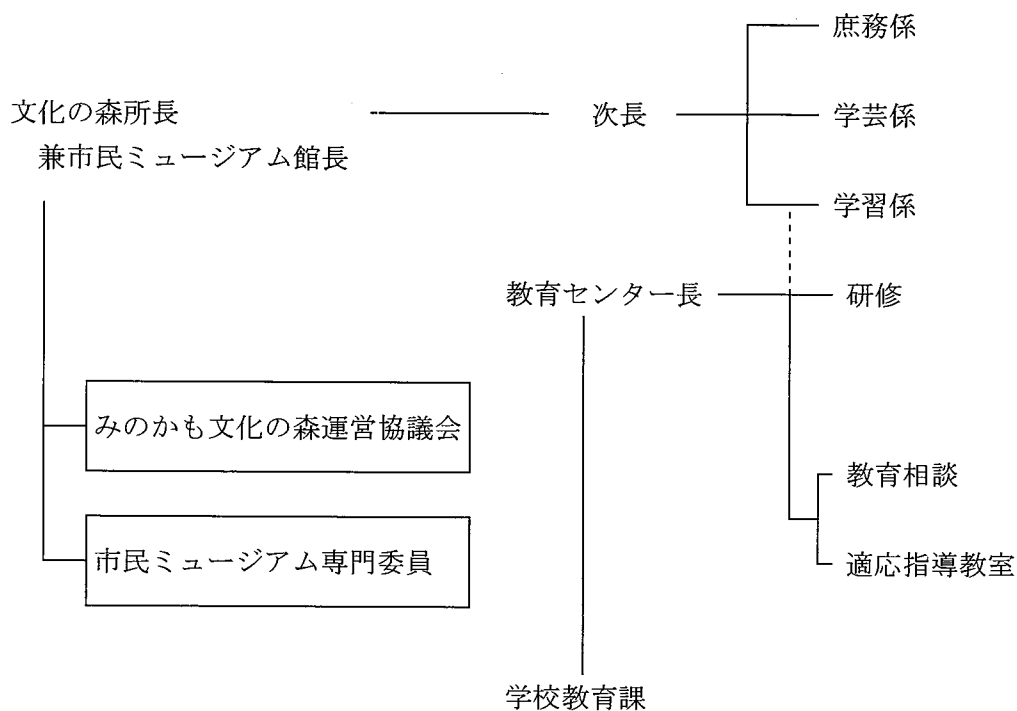
平成15年度中に掲載された主な新聞・雑誌等についてのまとめ

	掲載紙面	掲載号・日時	掲載内容		
新聞関係	岐阜新聞	2003.4.4	座馬井邸展		
		2003.4.8	ボランティア募集		
		2003.4.15	春・朗読の一日		
		2003.4.23	アートな1日講座「銅版画」		
		2003.5.22	アートボランティア屋外彫刻清掃		
		2003.5.23	第10回坪内逍遙対大賞「松本幸四郎」		
		2003.5.30	美濃加茂市美術連盟展		
		2003.6.16	蚕とまゆ展		
		2003.7.2	手回し蓄音機コンサート		
		2003.7.11	美濃加茂にサイヤゾウのいた頃展		
		2003.7.19	第10回坪内逍遙大賞授与式(松本幸四郎)		
		2003.9.4	アートな1日講座「化石のレプリカづくり」		
		2003.9.11	シェークスピア野外劇「冬の夜ばなし」		
		2003.9.30	[太田代官所]模型展示		
		2003.11.6	小本章氏公開制作		
		2003.11.8	津田左右吉賞表彰式		
		2003.11.22	美濃加茂市美術展		
		2003.12.5	朗読フェスティバル 案内		
		2003.12.8	朗読フェスティバル		
		2003.12.12	森のコンサート ゴスペルクリスマスコンサート		
		2003.12.16	森のコンサート ゴスペルクリスマスコンサート		
		2003.12.26	アートな1日講座「クリスマスカード作り」		
		2003.12.28	くらし体験講座「ミニ門松づくり」		
		2004.1.21	くらし体験講座「たこづくり」		
		2004.1.30	四季を食べる講座		
		2004.1.31	「写真で見る昭和の風俗」展		
		2004.2.6	森のコンサート バレンタインコンサート		
		2004.2.8	暮ラシカル道具展04		
		2004.2.24	小本章展		
		2004.2.25	アートな1日講座「まゆびなづくり」		
		2004.3.12	小本章展		
		2004.3.14	津田左右吉—その人と時代—展		
		2004.3.26	アートな1日講座「陶芸(手びねり+ろくろ)」		
		中日新聞		2003.4.9	座馬井邸展、ボランティア募集
				2003.4.17	催し案内
				2003.4.24	アートな1日講座「銅版画」
				2003.4.26	春・朗読の一日
				2003.5.22	アートボランティア屋外彫刻清掃
				2003.5.23	第10回坪内逍遙対大賞「松本幸四郎」
				2003.5.25	逍遙ゆかりの地めぐり
				2003.7.10	蚕とまゆ展
				2003.7.19	第10回坪内逍遙対大賞「松本幸四郎」
2003.8.6	美濃加茂にサイヤゾウのいた頃展				
2003.8.28	アートな1日講座「化石のレプリカづくり」				
2003.9.7	科学作品・社会科作品展と発明くふう展				
2003.9.11	シェークスピア野外劇「冬の夜ばなし」				
2003.9.18	シェークスピア野外劇「冬の夜ばなし」				
2003.9.25	催し案内				
2003.10.9	催し案内				

		2003.10.16		お月見コンサート
		2003.10.30		催し案内
		2003.11.5		津田左右吉賞表彰式
		2003.11.23		美濃加茂市美術展
		2003.12.4		催し案内
		2003.12.5		朗読フェスティバル
		2003.12.11		催し案内
		2003.12.18		催し案内
		2003.12.25		催し案内
		2003.12.26		くらし体験講座「ミニ門松づくり」
		2004.1.8		催し案内
		2004.1.15		催し案内
		2004.1.17		くらし体験講座「たこづくり」
		2004.1.22		催し案内
		2004.1.29		催し案内
		2004.2.1		暮ラシカル道具展04
		2004.2.5		催し案内
		2004.2.25		アートな1日講座「まゆびなづくり」
		2004.3.6		津田左右吉—その人と時代—展
		2004.3.25		催し案内
		2004.3.31		自然観察会「野草観察会」
教育新聞		2003.11.3		みのかも文化の森紹介
東京新聞		2003.7.5		津田左右吉博士記念館
毎日新聞		2003.7.19		第10回坪内逍遙大賞授与式(松本幸四郎)
		2003.10.4		中川ともと坪内節太郎—芝居絵の世界展
雑誌関係	ぴあ 中部版	2003.7.14	No.385	美濃加茂にサイヤゾウがいた頃展、蚕とまゆ展03
		2003.8.25	No.388	美濃加茂にサイヤゾウがいた頃展
		2003.9.22	No.390	中川ともと坪内節太郎—芝居絵の世界展
		2003.10.6	No.391	中川ともと坪内節太郎—芝居絵の世界展
		2003.10.20	No.392	中川ともと坪内節太郎—芝居絵の世界展
		2004.1.26	No.401	暮ラシカル道具展04
		2004.2.23	No.402	津田左右吉—その人と時代—展
	ケイコとマナブ	2003.3.25	4月号	小本章ワークショップ、四季を食べる講座「ふるさと料理」、アートな1日講座「陶芸」
		2003.5.25	6月号	土に残る記憶展—旧石器と縄文—、アートな1日講座「縄文アート」
		2003.6.25	7月号	四季を食べる講座「利休まんじゅう」、アートな1日講座「陶芸」
		2003.7.25	8月号	四季を食べる講座「ところ天・ミウガ寿司」
		2003.8.25	9月号	四季を食べる講座「すいとん」、くらし体験講座「夏を染める」
		2003.9.25	10月号	四季を食べる講座「栗おこわ」、野外劇「冬の夜はなし」
		2003.10.25	11月号	アートな1日講座「隈取アート」、くらし体験講座「秋を染める」
		2003.11.25	12月号	アートな1日講座「森のヘクセンハウス」、小本章ワークショップⅡ
		2003.12.25	1月号	アートな1日講座「高島純とクリスマスカード」、四季を食べる講座「こんにやく」
		2003.1.25	2月号	アートな1日講座「シルバークレイ」、「写真で見る昭和の風俗」展
		2003.2.25	3月号	アートな1日講座「まゆびな」、四季を食べる講座「ひなあられ」、森のコンサート
	夏休みおでかけレジャーガイド2003名古屋・東海版	2003.7.5		みのかも文化の森紹介
	月間タウン情報ぎふ TJ GIFU	2003.3.25	vol.330	座馬井邸展
		2003.4.25	vol.331	森の朗読会、里山体験塾「山野草摘み体験」、四季を食べる講座「山菜ごはん・手打ちそば」、土に残る記憶展—旧石器と縄文—
		2003.5.25	vol.332	蚕とまゆ展03
		2003.6.25	vol.333	蚕とまゆ展03、四季を食べる講座「ところ天・ミウガ寿司」、自然観察会「地層探検」、夏の子ども講座「ナイトサファリ」
		2003.7.25	vol.334	蚕とまゆ展03
		2003.8.25	vol.335	中川ともと坪内節太郎—芝居絵の世界展

		2003.9.25	vol.336	中川ともと坪内節太郎一芝居絵の世界展
るるぶ岐阜04		2003.9.1		みのかも文化の森紹介
博物館研究		2003.9.25	vol.38	中川ともと坪内節太郎一芝居絵の世界展
		2004.2.25	vol.39	津田左右吉一その人と時代一展、「小本章」展
その他	可茂ホームニュース	2003.7.5		美濃加茂にサイヤゾウがいた頃展、ミュージアムトーク
	ひだ・みの日本まん真ん中	2003	vol.38	みのかも文化の森紹介
	中日新聞「ぎふサーチ」	2004.2.1	2月号	津田左右吉一その人と時代一展
	東海テレビ 友の会	2003.12.1	12月号	みのかも文化の森紹介、「写真で見る昭和の風俗」展
	花の都ぎふ祭り ひだ・みの花紀行	2004.1	冬号	森のコンサート「バレンタインコンサート」
	Chat	2003.4.25	5月号	森のコンサート、春・朗読の一日
		2003.7.25	8月号	美濃加茂にサイヤゾウがいた頃展
		2003.10.25	11月号	まゆの家まつり
		2003.11.25	12月号	野鳥観察会、森の朗読会
		2004.3.25	2月号	津田左右吉一その人と時代一展、シンポジウム、朗読会
	かにさんくらぶ	2003.6.27	7月号	土に残る記憶展一旧石器と縄文一、夏の子ども講座「ナイトサファリ・子ども1日学芸員」
		2003.9.27	10月号	中川ともと坪内節太郎一芝居絵の世界展
		2003.11.27	12月号	森のコンサート、アートな1日講座「高島純とクリスマスカード」、くらし体験講座「ミニ門松づくり」
		2004.2.27	3月号	津田左右吉一その人と時代一展
	どーなっつ	2003.7.1	第13号	ペーパーアート、アートな1日講座「昆虫クラフト」、夏の子ども講座「ナイトサファリ・子どもそば打ち体験」
		2003.10.1	第14号	くらし体験講座「ミニ門松づくり」
		2004.1.1	第15号	くらし体験講座「たこづくり」
	ラ・ン・タン	2003.7	第14号	ペーパーアート、アートな1日講座「化石レプリカ」、四季を食べる講座「栗おこわ」
		2003.1	第15号	中川ともと坪内節太郎一芝居絵の世界展、アートな1日講座「限取アート」、自然観察会「秋のキノコ観察」、まゆの家まつり
		2003.12	第16号	自然観察会「野鳥観察会・早春の野草観察」、森のコンサート、アートな1日講座「高島純とクリスマスカード・まゆびな」、くらし体験講座「たこづくり」
	はじめのいっぽ	2003.7.1	第7号	ペーパーアート、アートな1日講座「陶芸」、自然観察会「地質と岩石の観察」
		2003.10.1	第8号	まゆの家まつり、アートな1日講座「高島純とクリスマスカード」、くらし体験講座「秋を染める」、自然観察会「野鳥観察会」
		2004.1.1	第9号	くらし体験講座「たこづくり」、アートな1日講座「まゆびな」、自然観察会「早春の野草観察」、四季を食べる講座「ひなあられ・粕汁」
	ぼけっと	2003.7.20	第9号	ペーパーアート、アートな1日講座「陶芸」くらし体験講座「夏を染める」
		2003.11.1	第10号	秋のもりもり劇場、アートな1日講座「高島純とクリスマスカード」、くらし体験講座「ミニ門松づくり」、森の朗読会
		2004.3.1	第11号	アートな1日講座「陶芸」
	カルかも	2003.1	第10号	秋のもりもり劇場、まゆの家まつり、自然観察会「秋のキノコ観察」、四季を食べる講座「手作り豆腐」

◆みのかも文化の森の組織図



◆利用案内

- 開館時間 9:00 ～ 17:00 (ただし、催事等があるときにはその部分のみ 22:00 まで開館)
- 休館日 市民ミュージアム 毎週月曜日 (ただし、祝日の場合は開館し、翌日休館)
第4火曜日、年末年始
- 教育センター 土・日曜日、祝日、年末年始
(ただし、教育相談は土・日曜日、祝日も実施)
- 駐車場 北駐車場 10 台、東駐車場 54 台、南駐車場 110 台
- 交通 鉄道/JR名古屋駅から美濃太田駅まで特急で 40 分
美濃太田駅北口から徒歩約 17 分
自動車/名古屋高速小牧 I C から約 35 分
中央自動車道多治見 I C から約 35 分

みのかも文化の森 年報

(平成 15 年度)

編集・発行 みのかも文化の森

2004 年 9 月 30 日

〒 505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1

電 話 0574-28-1110

F A X 0574-28-1104

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

印刷 サンメッセ株式会社